

輝き続けることを望み

手作りの活動を、スペースづくりを！

発行

しなやかシニアの会 代表 佐藤 明子

TEL/FAX (534) 5087

新しい年を迎え、また一つ年をとりました。何もせずとも生きていれば時間と共に年をとります。できるだけいい年を重ねたいとは思いますが簡単ではありません。更に自分の老いを現実に受容することはもっと難しいことと思います。

どこかに「自分だけは例外であって欲しい」と勝手な妄想を抱いています。自分が人の手助けを得ないと日常生活が送れなくなるなどとは想像だにしたくないというのが正直なところでしょ。

アメリカでは老化を病気と捉える"抗加齢医学"という分野があり、新陳代謝活性や細胞レベルの再生(若返

り)等の研究が進み、既に治療(?)が始まっているそうです。少しでも若く見られたいとの欲望は人間だけが抱くものではないでしょうか。なるべく自然のリズムに沿って生きたいと思えば、身体の老化は成り行きです。でも心の老化はできるだけ先延ばししたいと願っています。これからも"しなやかシニアの会"は心の活性化に向けて活動を続けようと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

"もう二度と戻らぬ日々を生きている"(毎日万柳より)



### 参加者の方から

昨秋「仕舞い・謡・鼓を楽しむ夕べ」に参加しました。生憎の雨で月は駄目でしたが、観世流能楽師古橋正邦さんの仕舞い、能面や、衣装等の観賞の後、古典芸能についての解説があり、その中で京都は井上八千代の関係で、井上流が多いといわれました。

「先生、僕は京都三中で井上流家元の息子と同級生でした」というと、「おたく何年生まれ」「昭和二年です」「それなら義尚やね」と言われました。井上善尚、とウソ十年振りと同級生の名前を思い出させてもらい、最後に「高砂」を歌うことになりました。「あなた、善尚と同級生なら一人でやるか」と言われ「飲む方は良いが謡う方はダメです」と答え、大笑いの後、全員で・高砂やこの浦舟に・を謡い楽しい一夜を過ごしました。

この辺に住んでいて、この建物が懐かしく、又楽しそうな催しなので参加しました。食事も量的に丁度良く手が入っている事を伺わせてくれました。舞台というより同じ平面で、舞をみ、聞き、触り普通では体験できない催しでした。雨でお庭に出られなかった事と、舞が少なかったのが少々残念でした。又このような催しを待っております。

### しなやかなつづやき

息子が結婚しその相手と呼ぶ時、名前で さんと呼べるが、その彼女が自分の友人等との話題に上った時、何と表現してよいか戸惑ってしまう。要は「お嫁さん」なのだが、「うちのお嫁さんは・・・」という言葉が抵抗無く出てこない。結局自分の中にある「嫁」と言う言葉が、社会的に持ってきた意味とダブルからなのだろう。一方若い娘に、その戸惑いははなしたら、「お嫁さんって可愛いじゃないですか～」と返ってきたことがある。さてさて、やっぱり自分はこだわり過ぎるのかなアと思うものの、今もって他人には「息子の彼女」「息子の伴侶」の言葉から抜けきれないでいる。どなたか、このこだわりを解決してくれる人はいないかなア・・・

阿部 記

スケッチ倶楽部の予定です！

1月27日

2月17日 いずれも

3月17日 生涯学習センター

今年は作品展を！を合言葉

に